

CASBEE-新築(簡易版)2008年版
龍谷ミュージアム

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築 (簡易版) 2008年

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.1.1)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.8
Q1 室内環境			0.40					3.8
1 音環境			3.9	0.15	-	-		3.9
1.1 騒音			5.0	0.40	-	-		
1 暗騒音レベル		展示室の許容騒音値NC-35	5.0	1.00	3.0	-		
2 設備騒音対策			-	-	-	-		
1.2 遮音			3.8	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能			3.0	0.60	3.0	-		
2 界壁遮音性能		展示室はコンクリート壁で囲まれているため、遮音性能が極めて	5.0	0.40	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	-	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	-	3.0	-		
1.3 吸音			2.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境			4.4	0.35	-	-		4.4
2.1 室温制御			3.8	0.50	-	-		
1 室温設定			3.0	0.38	3.0	-		
2 負荷変動・追従制御性			-	-	-	-		
3 外皮性能		窓がほとんどなく、コンクリートが厚いので、断熱性能が極めて高	5.0	0.25	3.0	-		
4 ゾーン別制御性		展示室、収蔵庫は部屋ごとに冷暖切替が可能	4.0	0.38	-	-		
5 温度・湿度制御			-	-	-	-		
6 個別制御			-	-	-	-		
7 時間外空調に対する配慮			-	-	-	-		
8 監視システム			-	-	-	-		
2.2 湿度制御		展示室・収蔵庫の空調は加湿・除湿機能を有し、設計湿度50%	5.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式		展示室・エントランスで床吹出空調を採用	5.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境			2.6	0.25	-	-		2.6
3.1 昼光利用			1.8	0.30	-	-		
1 昼光率			1.0	0.60	3.0	-		
2 方位別開口			-	-	3.0	-		
3 昼光利用設備			3.0	0.40	3.0	-		
3.2 グレア対策			3.0	0.30	-	-		
1 照明器具のグレア			-	-	-	-		
2 昼光制御			3.0	1.00	3.0	-		
3.3 照度			3.0	0.15	-	-		
1 照度			3.0	1.00	3.0	-		
2 照度均斉度			-	-	-	-		
3.4 照明制御			3.0	0.25	3.0	-		
4 空気質環境			4.2	0.25	-	-		4.2
4.1 発生源対策			5.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		建築基準法規制対象外となる建築材料をはほぼ全面的に採用	5.0	1.00	3.0	-		
2 アスベスト対策			-	-	-	-		
3 ダニ・カビ等			-	-	-	-		
4 レジオネラ対策			-	-	-	-		
4.2 換気			2.3	0.30	-	-		
1 換気量			3.0	0.33	3.0	-		
2 自然換気性能			1.0	0.33	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.33	3.0	-		
4 給気計画			-	-	-	-		
4.3 運用管理			5.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視		展示室の外気導入量はCO2制御を採用し、CO2を監視	5.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御		全館禁煙	5.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能			-	0.30	-	-		4.1
1 機能性			4.5	0.40	-	-		4.5
1.1 機能性・使いやすさ			4.3	0.40	-	-		
1 広さ・収納性		日常作業に使う学芸員・資料室、収蔵庫前室を含めて12㎡/1人	5.0	0.33	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応		事務室、学芸員・資料室はOAフロアかつコンセント容量50VA/㎡	5.0	0.33	3.0	-		
3 バリアフリー計画			3.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性			5.0	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		展示室の想定天井高3.5～4m	5.0	0.33	3.0	-		
2 リフレッシュスペース		カフェを併設	5.0	0.33	-	-		
3 内装計画		コンセプトと機能を想定し内装・照明計画を行い、インテリアパース	5.0	0.33	3.0	-		
1.3 維持管理			4.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		軒が深く、外壁が汚れにくい設計など	5.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		各トイレ毎に掃除流しを設置など	4.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性			3.4	0.31	-	-		3.4
2.1 耐震・免震			3.0	0.48	-	-		
1 耐震性			3.0	0.80	-	-		
2 免震・制振性能			3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数			3.7	0.33	-	-		
1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.23	-	-		
2 外壁仕上材の補修必要間隔		コンクリート打ち放しは耐久性の高いフッ素樹脂クリアコーティング	5.0	0.23	-	-		
3 主要内装仕上材の更新必要間隔		コンクリート打ち放し主体の内装仕上は耐久性が高い	5.0	0.09	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		内部結露水を適切に排水している	4.0	0.08	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			3.0	0.15	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.23	-	-		

2.3 適切な更新							
2.4 信頼性			4.0	0.19	-	-	
1	空調・換気設備	空調・換気は重要度に応じて系統区分、熱源は複数ユニットから	5.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	節水器具の採用 汚水槽・雑排水槽の設置	4.0	0.20	-	-	
3	電気設備	非常用発電機の設置、重要負荷の電源2重化	4.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	防潮パネル等の設置により、地下への浸水を防いでいる	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			4.3	0.29	-	-	4.3
3.1 空間のゆとり			5.0	0.31	-	-	
1	階高のゆとり	展示室の階高は4.8m程度	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	展示室は大スパンで、無柱空間を実現	5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		積載加重は4500N/㎡以上	5.0	0.31	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.2	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性	点検口などの設置により、躯体、仕上の損傷なく更新可能	5.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.5
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		景観条例を遵守し、西本願寺の正面にふさわしい外観を実現	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	ピロティ、通り抜け通路の設置	5.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.7
1 建物の熱負荷抑制		PAL値計算書を参照	4.0	0.30	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.5	0.20	-	-	3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用	学芸員・資料室にハイサイドライトを設置	4.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		ERR=24.2	4.0	0.30	-	-	4.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	4.0
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水	節水型便器や自動水栓、女子トイレには擬音装置を採用。	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.2	0.63	-	-	4.2
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	既存地下外壁の一部を継続利用	4.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	基礎等に高炉セメントを使用	4.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	タイルカーペット、ビニルタイル、ビニルシートにリサイクル材を適	5.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+軽鉄+仕上材を使用し解体、再利用が可能。OAフロアを	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.8	0.22	-	-	3.8
3.1	有害物質を含まない材料の使用	F☆☆☆☆の建築材料を4種以上使用している	5.0	0.32	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.3	0.68	-	-	
1	消火剤	N2ガス消火を採用し、ハロンを使用しない	4.0	0.33	-	-	
2	断熱材		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮			4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1	大気汚染防止	全電気式で燃焼機器を使用しない	5.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制	東側道路が狭いため、駐車場を隔地で確保している	4.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			5.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	屋外広告はなく、光害はおこらない	5.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	反射光は発生しない	5.0	0.30	-	-	